

# 2024年度専門学校長野ビジネス外語カレッジ 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2023年4月1日  
至：2024年3月31日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価の概要と実施状況

専門学校長野ビジネス外語カレッジ学校関係者評価委員会は「2023年度自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った。その結果を以下のとおり報告する。

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

専門学校 長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を以下のように定める。

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②本校と密接に関係する団体、企業の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

#### 2) 基本方針

専門学校長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

#### 3) 委員会運営

2024年度における学校関係者評価委員会は、以下のように年1回開催する。

前半部、学内委員による2023年度（前年度）教育活動報告・運用実績に対する学校自己点検自己評価の結果総括、2024年度事業計画のご説明

後半部、外部委員による評価報告、審議

### 2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	
岡田 基幸	AREC 浅間リサーチエクステンションセンター	企業・業界団体関係者 評価委員長
水野 泰雄	有限会社デザインルーム エム	企業・業界団体関係者
林 辰幸	林行政書士事務所	企業・業界団体関係者
山崎 博昭	上田商工会議所	企業・業界団体関係者

※林委員は当日所用によりご欠席、自己点検評価報告書に対しての評価表・質問事項は事前に頂戴した

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

2024年度学校関係者評価委員会		
日時：2024年7月12日（金）15：00～17：00		
場所：専門学校長野ビジネス外語カレッジ4階大教室		
会議次第		
時間	項目	担当者
15：00	開会挨拶	荻野理事長
15：10	委員紹介	浅野校長
15：15	2024年事業計画	浅野校長
15：25	2023年度事業総括 2023年度教育活動成果報告 2023年度キャリアセンター活動報告	佐藤委員 堀内委員 高木委員
16：00	2023年度学校自己点検自己評価総括	佐藤委員
16：30	審議・意見交換会、委員長総括	各委員、 岡田委員長
17：00	閉会	

### 4. 基準項目ごとの学校関係者評価

#### 1 教育理念・目的・育成人材像等

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・教育理念、目的が明確に定められている。様々な国の外国人が集まりグローバルな人材を育成する環境は大きな強みであり、またWEBマーケティングコース等、即戦力人材の育成は企業ニーズにマッチしている。</li> <li>・1-2-5 前年とは表現が異なるが、根本は前年同様と読み取れる。具体的な取り組みを伺いたい。⇒学校回答：企業・行政との密な連携、上田市内/長野県内の他校との差別化戦略（多国籍学生の積極的受け入れ、市内高校との交流会の実施、学内での日本人学生と留学生双方に対しての交流の機会の提供、市/商工会との授業連携）、単なる送り出しに留まらない日本国内で長く活躍する人材の育成のための包括的な教育の実施（マナー教育、ビジネス日本語、キャリアデザイン、自己表現、異文化理解授業など）</li> </ul>					

## 2 学校運営

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・生徒が増えたことで教職員数も増え学校運営は多岐にわたり多忙になるが、円滑な運営に努力していると感じる。</li> <li>・運営方針を基に諸規定が定められ共有されている。人事関連の制度も整備されている。今後は職員全体で目的・意思決定情報を共有して役割をさらに明確化していくことが重要となる。</li> <li>・社内の様々なシステムの DX 化を組織全体で進めていることは評価できる点である。使用するうえで学生と職員の利便性があるかどうかという視点を持ちながら積極的に取り入れていただきたい。</li> <li>・職員間での評価や認識に乖離があることを課題点として自己評価しているが、これは横方向の連携や縦方向の浸透のかじ取りを行う各部門のマネジメント層の問題であることが一般的に多い。適材適所への人材配置を行う、その効果測定を行う、など取り組んでみてはどうか。</li> </ul>					

## 3 教育活動

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3-15-12 自己評価を2段階下げている理由は「課題とその解決策」から読み取れる。改善を期待したい。</li> <li>・多種に渡るコースと教育内容を、組織運営のなかで機能させて実施している。</li> <li>・カリキュラムについては常にニーズを把握し、見直しを行うなど常に最適化するように専門家の意見等も参考に方向付けを行っている。教員の教授力は重要であり、教員がスキルアップできる仕組みも重要である。</li> <li>・各学科の教育目標やカリキュラムなどはしっかり作られているものの、自己評価で言及されていたように教員の教授力にバラツキがあるというのであれば、授業の質に一貫性が保たれていないのではと懸念している。各教員の主体性に任せるのではなく、全体のスキルをボトムアップする取り組みのスキーム化していただきたい。</li> </ul>					

#### 4 教育成果

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価している。課題に対しての解決策の検討を期待している。(4-21-9 4-21-10)</li> <li>・4-19-3 日本語試験受験率が伸び悩みについて、これは由々しき問題であると考えため早急な改善を期待する。4-21-7 の取り組みはたいへん評価できる。</li> <li>・専門性の高い能力を身につけさせスキルアップし、驚くべき就職内定率を誇っている点については特筆できる点である。</li> <li>・就職内定率 98%は評価に値する。キャリアコンサルタントも 2 名体制として進路指導を適切に行っている。就職後の卒業生に対するフォローアップも重要な課題である。</li> </ul>					

#### 5 学生支援

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・特に以下 2 点は評価に値する。 2023 年度よりグループ学校巡回保健師が着任。 2023 年度末に同窓会を再編、運用開始。2024 年度以降実際に活動を実施予定。</li> <li>・キャリアデザインとサポートの充実がされており、支援の内容も多く高く評価できる。</li> <li>・学生に対する相談体制、経済的な支援体制、健康管理等が構築されており、機能している。今後も保護者とも積極的に意思疎通を図り、学生がのびのび勉学に励む体制をすすめることが必要である。</li> </ul>					

#### 6 教育環境

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1

林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・教育現場環境の充実は物理的問題もあり今後の課題である。</li> <li>・インターンシップで企業を知ることが就活に重要となっている。提携企業数も安定してきた点は良い傾向である。施設、設備のメンテナンスを定期的実施し、安全確保を徹底している。防災訓練も定期的実践され、防災意識を高めている。</li> <li>・6-32-9 インターンシップの労災加入状況を伺いたい。⇒学校回答：加入済み。保険を利用するような事故はなし。</li> </ul>					

## 7 学生の募集と受け入れ

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・学校案内は各種用意されていて、充実した内容を伝えていると評価する。今後は、保護者も含めて学校の取り組みを広く伝えることを考えることが重要。</li> <li>・募集活動は協会の取り決めに従って実施している。入学選考基準、方法を明確にしており、適切である。</li> <li>・定員目標を達成していることは評価できる。今後も企業等就職先のニーズを把握し、即戦力となる学生を育成することが重要となる。</li> </ul>					

## 8 財務

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> </ul>					

- ・財務状況も適切に把握している。財務内容も公開されており情報開示も適切である。学生数も増加しており評価できる。経費削減も重要であるが、質の高い教育内容を最優先として取り組むべきである。
- ・中長期目標を掲げて、社会情勢に左右されない財務基盤をどう目指すかが今後継続して考えていく課題（視点）である。

## 9 法令等の遵守

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価し、課題を的確にとらえ、改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・適切に柔軟にプライバシーポリシーやリテラシー研修を受けている。</li> <li>・職員間の情報共有を図り、法令順守を徹底している。自己評価報告書の公表等、自己点検についてもガイドラインに沿って的確に行っている。</li> </ul>					

## 10 社会貢献

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
岡田	5	4	3	2	1
林	5	4	3	2	1
水野	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
コメント					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正しく自己評価している。課題に対しての解決策の検討を期待している。（社会貢献の項目では解決策の検討は難しいものではあるが。）</li> <li>・社会貢献はそう簡単なものでないが、学校運営を長野県上田市で行っていることも十分な地域貢献に繋がっていると考えている。引き続き、SDGs（持続可能な目標）を意識しての学校運営継続を望む、</li> <li>・地域とのつながりを重要視し、行政、教育機関、商工団体とのつながりを重要視していることは評価に値する。企業団体とのつながりは、企業ニーズの把握や学校活動の周知に大きく貢献するため、引き続き力を入れていくことがより良い経営環境を構築できる。</li> </ul>					

## 5. 外部委員による総評

数年間に及ぶコロナ禍の影響下で本校についても学生数の大幅な減少があったが、今年度（令和6年度）に学生数が過去最高の人数になったことは大変大きな成果である。過去最高の学生数であるが、昨年度までのように高い就職内定率・高い学生満足度を維持することに期待したい。

学校運営におけるマネジメントシステムの改革（トップとローアの意識乖離の改善のためのミドル層育成）を課題として挙げていたが、ローアをミドルに育成する意識だけでなくトップがミドルの意識を持つことも重要である。マネジメントシステムの変革によって教授力のボトムアップにも波及効果をもたらすことを期待している。

社会貢献の項目について、学校の自己評価は低い数値となっているが、学校の存在と年々学生数が増えながら円滑な学校運営を行っている時点で地域貢献への一助を担っていることは間違いない。過去最高の学生数であることやその出身国数、学生が上田市内の企業で行っているアルバイトがもたらす経済効果などをもっとアピールしていただきたい。

自己点検・評価結果は、概ね適正で妥当と評価できる。教育サービスはおおむね適正に提供されており、学校運営も適正であることが確認できた。各項目の評価については、全体的に高い数値であり、学校として良く取り組んでいる印象を受けた。今回見えてきた課題について、今後も対策をお願いしたい。

以上

2024年7月17日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会